

休眠預金活用事業「中核的フードバンクによる地域包括支援体制事業」の公募結果について

公益財団法人パブリックリソース財団は、休眠預金等活用法に基づく2020年度の資金分配団体に採択され、革新的な手法の開発、普及により社会に大きな変革の創出を目指す「イノベーション企画支援事業」の枠として、地域の食の支援ネットワークの中核となる団体の組織基盤強化と、地域密着の食の支援団体との連携関係を通じた県域レベルの包括的な食の支援の体制構築を目指す、「中核的フードバンクによる地域包括支援体制事業」の公募を実施しました。その公募結果と採択団体の事業概要等について、以下のとおり公表します。

記

1 助成事業の内容

(1) 当事業の目的

本事業は、経済的困窮家庭や生活保護受給家庭、様々な災害や疫病拡大を原因に急激に生活維持が困難な状況に陥った家庭、低所得の単身高齢者などを対象に、既存の福祉サービス以外にニーズが高まっている「食の支援」について、県域レベルをカバーし地域のハブとなる中核的フードバンクを形成し、食品や物品の調達力を推し進める組織基盤強化を行うと同時に、地域密着のフードバンクや子ども食堂、フードパントリーと協力関係を持ち、このネットワークを中核として食材や物品、資金の調達から食支援団体への物資提供、支援対象者へ支援サービスが届く事業モデルの確立を目的としており、将来的に地域の必要不可欠で持続可能なインフラに整備されることを目的とします。

(2) 支援内容

①資金助成

食品保管設備の整備、配送網確立費用等、事業実施に必要な経費の助成（最大3,400万円）

②非資金的支援

- ・ 専門家アドバイザーによる事業推進のための支援
- ・ 賛同企業の開拓による食材・資金等の寄付による支援
- ・ 事業評価支援

(3) 助成期間

2021年7月（契約日）～2024年3月31日

2 応募状況

(1) 公募期間

2021年2月3日～2021年3月26日

(2) 応募総数

20件

3 審査委員会

(1) 開催日

- ・一次審査会：2021年4月26日（月）
- ・二次審査会：2021年5月15日（土）

(2) 審査方法

第三者の専門家による審査委員会を設置し、審査委員による下記の審査基準に基づく書類選考を行いました。

(3) 審査委員

委員長	渡辺 元	公益財団法人助成財団センター 理事
委員	徳永 洋子	ファンドレイジング・ラボ 代表
委員	中尾 洋三	味の素株式会社 サステナビリティ推進部社会グループ
委員	三島 理恵	NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ マネージャー
委員	米山 広明	一般社団法人全国フードバンク推進協議会 事務局長

(4) 審査基準

① 実行団体としての適格性

- ・これまで実施してきた「食を通じた事業」や「ネットワーク形成促進等の支援」の実績はあるか
- ・事業計画書に示す事業を的確かつ公正に実施できるガバナンス・コンプライアンス体制等を整えているか

② 本事業の目的に沿っているか

- ・社会状況や問題の構造、支援対象者のニーズや特性の把握を十分かつ具体的に行った上で課題を設定し、適切な事業提案ができているか
- ・地域住民や地域コミュニティ、地域の関係機関との関わりをつくり出す工夫がされているか

③ 計画の妥当性

- ・地域でネットワークを形成し事業運営することで、持続的・効果的により多くのインパクトを生み出す提案となっているか
- ・助成事業終了後に、自立のかつ継続的に運営できる計画は立てられているか

④計画の実現可能性

- ・事業目的、方法、ネットワークの体制や役割分担、スケジュール、予算、目標設定等の面で十分に計画され、実行可能であるか
- ・ネットワーク形成のための準備状況、または、実績があるか

⑤波及効果

- ・他地域や組織、分野へ展開可能なモデル事業となりうるか
- ・政策や行政の施策に対して好ましい影響を与えうるか

4 審査結果

審査委員会による審査の結果、**5団体**が助成対象（実行団体）として採択されました。各団体の事業名、助成金額、事業概要等は次ページのとおりです。

「中核的フードバンクによる地域包括支援体制事業」実行団体および事業概要等

実行団体 No.1

団体名	認定 NPO 法人フードバンク山梨 (山梨県)
申請事業名	山梨県下における包括的なフードバンク支援体制構築事業
事業の概要	<p>【全県的なフードバンク・ネットワーク体制の構築】</p> <p>これまでの行政、企業、福祉団体、他NPO（含・県内の他フードバンク）、個人との連携の輪をさらに広げ、それらを網羅したネットワーク組織（仮称：山梨フードバンク・ネットワーク）を新たに設立する。それにより、寄贈される食品の量をさらに増やしていくとともに、当法人が中核的役割を果たしつつ他の支援団体等と連携、分担して、あまねく生活困窮世帯の把握や食料の配布、相談支援、学習支援等を行える体制を構築する。</p>
助成総額 (3年間合計)	35,449,663 円 （直接事業費 28,967,843 円、管理的経費 4,981,820 円、評価経費 1,500,000 円）
選定理由	安定した組織基盤を持ち、ガバナンス・コンプライアンスについても留意し活動をおこなっている。また、これまでの県内での活動実績が充分であり、さらに地域の協力団体と連携しながら行っていくという事業計画についても非常に具体的であった。

実行団体 No.2

団体名	企業組合労協船橋事業団フードバンクちば (千葉県)
申請事業名	千葉県下におけるフードバンクの中核的プラットフォーム構築事業
事業の概要	<p>「フードバンクちば」では、県内のさまざまな団体と連携をして千葉県全体を活動エリアとしてすでに中核的FB活動に取り組んでいる。</p> <p>今回の事業での取り組みとしては、</p> <p>①現在の紙ベースのデータ管理からIT化に取り組み、限られた運転資金と人的資源のもとで、情報、物流を最大限の効率で動かし、中核的FB活動の持続化を図る。</p> <p>②一緒に取り組む連携団体をふやし、さらにはそのうちの3か所を目安に物流のサテライト機能を任せることを目指す。千葉県は広く1か所の物流拠点で全県を対象に食品をやりとりすることは非効率であるという点から、IT化を活用し労力をかけないサテライト機能を構築する。</p>
助成総額 (3年間合計)	34,600,000 円 （直接事業費 29,020,000 円、管理的経費 3,960,000 円、評価経費 1,620,000 円）

選定理由	課題認識に対する事業として非常に具体的に計画されていた。地域企業、市民との連携がある点、IT化によるシステム構築と事業連携による他地域・他団体への波及効果が期待される点を評価した。
------	--

実行団体 No.3

団体名	NPO 法人フードバンクネット西埼玉（埼玉県）
申請事業名	中核的フードバンクとしての基盤強化を目的とした事業
事業の概要	<p>外部専門家に依頼をして各種規定類を整備するなど、法人としての基盤を強化する。また倉庫の改修・設備強化を行い、効率的かつ安全にフードバンク活動ができるようにしていく。</p> <p>立ち上げから5年が経過し、地域に周知され活動が拡大するに従い、事務作業や倉庫作業が煩雑となってきたが、ボランティアベースの活動のため安定した人材を確保することが難しく課題となっていた。事務局、倉庫業務、配送担当など、それぞれの役割を担うスタッフを安定的に確保し、ボランティアスタッフの負担軽減を図って活動全体を安定させる。スタッフの確保に当たっては、専門家の助言を得ながら雇用環境の整備を図る。さらに資金調達アドバイザーからの支援を受けつつ、資金調達、特に協賛団体を増やし、自力で活動資金を調達できることを目指す。</p>
助成総額 (3年間合計)	27,532,600 円 （直接事業費 24,366,000 円、管理的経費 2,166,600 円、評価経費 1,000,000 円）
選定理由	応募時点ですでに構築されているネットワークを、さらに広域へネットワーク化していくという点が特徴的であった。これまでのフードバンク事業実績、様々な団体とのネットワークを重視した事業運営を評価した。

実行団体 No.4

団体名	特定非営利活動法人フードバンク TAMA（東京都）
申請事業名	「多摩地域フードバンクネットワーク」の構築と食支援体制の拡大強化

事業の概要	<p>①日野市、八王子市、立川市、昭島市、町田市、調布市、三鷹市、狛江市、青梅市において既に10箇所のフードバンクが設立されているものの、今後、多摩地域各市に最低1つはフードバンクが望ましく、そうしたフードバンク活動を行う基盤として「多摩地域フードバンクネットワーク」を構築することで、横断的機能を発揮したいと考えている。この効果は食品企業のフードロス対策としての食品ロスの統合的な受け皿になり得ると考えている。</p> <p>②多摩地域には子ども食堂が数多くあり、多摩地域全体をカバーする「多摩子ども食堂ネットワーク」と積極的に連携して子育て貧困家庭への食支援を積極的に取り組んでいく。これにより、市をまたいでの利用が可能となるという効果が見込まれる。</p>
助成総額 (3年間合計)	21,460,000円 (直接事業費 18,310,000円、管理的経費 2,170,000円、評価経費 980,000円)
選定理由	地域とのネットワーク体制が整備されており、事業の計画についても具体性があった。多摩地区の食品供給需要量の多さからも、同地域を包括するフードバンクが確立する意義の大きさを評価した。

実行団体 No.5

団体名	公益社団法人フードバンクかながわ (神奈川県)
申請事業名	フードバンク活動のさらなる発展のために
事業の概要	<p>(1) 食料の収集・配布を通じた、生活困窮者等への支援事業</p> <p>① 生活困窮者等、食の支援を必要とする方々への支援活動を実施している非営利団体・施設・行政等へ収集食品の無償提供を行う団体・個人を拡大する。</p> <p>② 支援活動団体や行政機関、社会福祉協議会のネットワークの構築を図る。</p> <p>(2) 地域社会における市民の相互扶助を増進することを目的とする事業</p> <p>① 食の支援を必要としている方々への支援活動(非営利団体等)がさらに拡がるよう神奈川県民にむけ、フードバンクを活用した実践事例等の情報提供を行う。</p>
助成総額 (3年間合計)	35,600,000円 (直接事業費 33,610,000円、管理的経費 390,000円、評価経費 1,600,000円)
選定理由	団体の組織基盤が安定しており、申請事業についても具体的かつ実施体制も十分である。また、生協関係のネットワークを活用した事業は非常に特徴的であり、すでに構築が進んでおり実現可能性が高い点も評価した。

※助成金の算定根拠は、各団体から提出された事業計画書・資金計画書等に基づき算定しています。

【参考情報】

- ◆「中核的フードバンクによる地域包括支援体制事業」公募ホームページ

<https://www.public.or.jp/project/f1007>

- ◆「中核的フードバンクによる地域包括支援体制事業」応募要項

https://f57bd571-dc5e-4590-a963-e61e2d6fb208.filesusr.com/ugd/9a4a58_2692e9bb5a7f4953b9091b37cfee5f9b.pdf

- ◆休眠預金等活用法について（内閣府）

https://www5.cao.go.jp/kyumin_yokin/index.html

以上